

巻頭言

「あたりまえ」を問い直す

教職課程副センター長 齋藤一晴

皆さんにとって、小学校、中学校、高校と使ってきた教科書はどのような存在だろうか。これまで教科書の成り立ちや特徴などについて、授業のなかで科目担当者から説明を受けたことはあるだろうか。おそらく何も説明を受けないまま手渡され、購入してきたのではないだろうか。

日本の教科書制度には文部科学省による検定が存在する。一方、海外に目を向ければ、検定や審査を一切行わない国もある。この場合、科目担当者が決めた文献を自由に授業で使うことになる。子どもたちは、科目担当者がなぜその文献を選択したのか説明を受け、それが自分にとってどのような意味を持つのかを考えるとところから授業は始まる。子どもたちにとって、教科書は検討素材にすぎず、書かれている内容を批判的にとらえることを学ぶことになる。

批判的にとらえるために、子どもたちには批判がひとりよがりにならないように自分自身の考え方を根拠とともに吟味し、他者との対話を通じて客観的にとらえなおすことが求められる。日本のように教科書がいわば「聖典」のように扱われることはない。あくまでも教科書は「学び捨てる」存在だといえるだろう。

私たちにとって日々の授業や模擬授業、そして教育実習と、常に教科書の存在を避けて通ることはできない。ところが教科書制度や教科書のあり方をじっくり学べる科目が教職課程に存在しない。何も疑問を持たず、あたりまえのように教科書をひらき、読み、授業で使っている。はたしてこれでいいのだろうか。

私たちにとってあたりまえのことであっても、海外で暮らす人々や異なる環境で暮らす他者からすればそうではないことは少なくない。みずからの「あたりまえ」が揺さぶられた経験が無い場合、それを問い直すことは簡単ではないだろう。「あたりまえ」にいかにか立ち向かうのかは、教職課程を履修する学生だけでなく、現代社会を生きる私たちにとって大切なことだと思う。

さらに言えば、「あたりまえ」に疑問をもったときや、それによって困っている人を見かけた際、私たちは往々にして声をあげず、見てみぬふりをしがちではないだろうか。私は、こういった場面に皆さんがでくわしたとき、本学で学び教員になるということにどのような意味があるのかを考えてみてほしいと感じている。もちろん、これは読者の皆さんに求めるだけでなく、私自身が向き合わなければならないことだとも認識している。

ぜひ、授業を通して、皆さんと「あたりまえ」を問い直し、対話をしてみたい。大学やゼミ、授業は多様な人間が集う「小さな社会」だと思う。小さなところから少しずつ皆さんと問題意識を共有することで、現代社会が抱える諸課題を解決していくことにつながっていければと願っている。

ステップアップ講座に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 上原大空

・なぜ参加しようと思ったのか。

私は、今年度の9月27日から10月22日までの期間、小学校へ教育実習を行った。2年時に行うはずだった教職インターンシップには新型コロナウイルスの影響で履修することができなかったこともあり、現場に行くことが初めてであった。

教育実習では、実際に子どもたちの前で授業をしたり、休み時間を共に過ごしたりと多くの経験をすることができた。その教育実習の担当教員が言って下さった言葉が私はとても心に残っている。「教員採用試験の内容で、筆記も大切だが、面接もとても大事。質問されたことをすぐに適切に答えることができる対応力を見られる。実際に現場に出たときには、常に子どもたちの発言、行動に対応しなければならないから。」という言葉である。また、大学でも面接で多くの受験者が落ちていることを知った。このことから、教員採用試験を受けるうえで、面接の対策をしっかりしておくことはとても大切であると私は考える。

しかし、私は、今までの高校や大学の受験で面接の形式で受けた経験がない。そこで、このステップアップ講座に参加することで面接練習において大切な知識と経験を得たいと考えて参加することにした。

・参加して学んだこと、気づいたこと

私がこの面接練習で参加して気づいたことは、質問が多く視点から行われたことである。今回の面接練習では、10人ほどのグループに分かれ、順番に個人面接を受けていく形式であった。各学生が面接を受けていく中で、担当の先生が全員に同じ視点の質問をすることが一回もなかったことに驚いた。

私は、学校と地域の関係、また地域の良さという点から質問をされたが、他の人は、子どもたちとの接し方や実態、または情報化やグローバル化など社会に目を向けた質問などいくつかの視点からの質問が行われた。私は、こうした経験から面接練習を多く行う必要があると改めて感じた。友達同士で練習したり、今回のような講座に参加したりするなど積極的に行って面接の対策をしていきたいと考える。

・今後について

私は、小学校の教員になるために、筆記試験の勉強に日々励んでいる。これに関しては、自分で時間を見つけて問題を何度も解くことができる。しかし、面接のような形式の試験は、自分ひとりで対策していくことは難しい。友人や大学の先生などに協力をしてもらいながら、面接の練習を行い、本番で自信をもってはっきりと自分の意見を主張できるようにしていきたい。また、大学で開いてくれる面接の対策講座にも積極的に参加し、自分の夢である小学校の教員になれるように努力していきたい。



ステップアップ講座に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 杉村覚

・なぜ参加しようと思ったか

9月も後半になり、教員採用試験までもう1年を切ってしまうという状態で自分の中で焦りや何かやらなければいけないという気持ちが非常に芽生えてきた時期でした。その時に、このステップアップ講座の存在を知り、考える前にまずは動くことが大事だと思い参加することにしました。

・参加してみて気づいたこと

ステップアップ講座に参加して気づいたことは、筆記試験の対策の仕方や面接試験の対策の仕方を自分が知っているようで全然理解していなかったことです。私は、今まで筆記試験の勉強は教科に構わず取りあえず問題を数多く解くことが必要だと考えてきました。面接試験も同様に本番でできるようになるまで何回も練習を繰り返していくしかないと考えてきました。

しかし、ただがむしゃらに取り組むだけでは忍耐力のある人ならいいものの、自分のようにない人間にとっては追い込む日々が続くため継続しません。そのため、要領良くこなすことが必要だということをこの講座を経て学びました。

例えば、筆記試験の対策であれば、長期間継続的に取り組むものや直前期に一気に詰め込むものなどに分けることで今取り組まなければいけないものを絞って勉強することができます。また、面接対策でも情報収集→回答を考える→練習をするなど取り組む順番を整理していくことで悩むことなく対策を進めていくことができます。こうして学んだことで、何かやらなければいけないということが何か明確になり、心にゆとりをもって試験勉強に取り組むことができるようになりました。

・教採にどのように役立てたか

この講座では、筆記試験や面接試験の対策の仕方の他に様々な情報を手に入れて役立てていくことができました。

1つ目は自治体の倍率です。自分は第一志望が決まっていたのですが、第二志望はまだ決まっていませんでした。そのため、様々な自治体の倍率を知ることは、受かりやすいところを見極めることができ、第二志望の自治体の候補を絞っていくことに繋げることができました。

2つ目は、「教員養成セミナー」や「教職課程」の存在です。この雑誌の存在は、この講座がなければ知ることはできませんでした。教員採用試験は、参考書などを買って勉強することも大事ですが、受ける前に多くの情報を知っておくことも非常に重要になります。そうした情報を得るには、どの本や雑誌を選べばいいのか大変参考になりました。このように、講座では、様々な情報を手に入れることができ、自分のために利用していくことができました。

・将来、どんな教員になってみたいか

自分は、この講座で学んだことを活かして、教採に合格して子ども一人ひとりに向き合うことができる教員を目指していきたいです。そうして、子ども達に学校が楽しいと思ってもらえるような環境をつくっていくことができればいいと思います。



合格体験報告会 参加記

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修2年 大石茉奈

参加した経緯

入学から2年経った現在、本当に教師になりたいのかという自分自身の意識を確認するために参加した。また、今年度は、都道府県別教育委員会の説明会に参加し、各都道府県の試験についてお話を聴かせて頂いた。しかし、試験に至るまでの過程についてお話を聴く機会はなかった。コロナ禍で、先輩方と関わる機会も少なく、経験談を聴くことのできる貴重な機会だと考え、参加に至った。

参加して気付いたこと…教員採用試験に向け、どのように役立てるのか

報告会では、合格された7人の先輩方からお話を聴かせて頂いた。お話の中には、共通する部分もあったが、多くが人それぞれであるという印象を受けた。これをやれば良いという決まった合格へのテンプレートは無く、自分に合う勉強法を確立していく必要があるのだと感じた。ただ、自分に合う勉強法の確立と言っても、先輩方のように約1年弱もの間、教員採用試験対策を続けることは、非常に辛いことではないだろうか。今の自分には、到底できないことに感じてしまう。ましてや早く対策を始めた方ほど長期戦となる。

報告会では、先輩方の辛い時のお話も聴かせて頂いた。誰もが辛い時というのは経験されたようである。辛い時の乗り越え方は人それぞれであったが、先輩方は、自分の気持ちと上手く向き合いながら、辛さを乗り越えられたようであった。ただ、辛いと感じる日があっても、常に気持ちの根底には“絶対に教師になる”という強い気持ちが必要だと感じた。これは、7人の先輩方から共通して感じたことである。

ある先輩は、「今、この勉強をすれば、教師になれるんだ」という気持ちで、図書館の閉館時間まで勉強をしていたと仰っていた。本来、そのぐらいの熱量を持っていないはずであるのだろう。だが、私は、ただただ「すごいなあ」とまるで他人事のように感じてしまった。今の私とは、意識の差を感じた。そのような意味でも、合格体験報告会に参加させて頂いたことは、非常に良かったと感じている。

現実を知ったため、正直不安を感じるようになったが、2年生の内に参加させて頂いたことで、今から準備が必要であることに気づかされた。意識面以外にも、報告会では、初めて聞くような単語を多々耳にした。3年生の先輩に教えて頂いて理解することもできたが、まだまだ教員採用試験についての理解が不十分であると痛感した。

先輩も、個人的に沢山調べたと仰っていた。まずは、情報収集から始めていきたい。合格体験報告会で学んだことを活かし、今年の報告会では、昨年とは大きく変化した状態で参加したい。

将来、どんな教員になりたいか

報告会に参加し、明確な教師像を持つことが必要であると感じた。しかし、今の私には、明確に教師像を文字化することはできない。今後、ただ合格することだけを考えるのではなく、大学での学びを続け、教師像について深く考えていきたい。



合格体験記（静岡県・特別支援学校）

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 坂倉麗士

1 一次試験対策

一次試験対策で大切になってくるのはなんといっても勉強法です。勉強法において私が一番大切に感じたのは自分に合った勉強法をすることです。私の場合、まず全国版の参考書を勉強して基礎知識を身につけてから問題集をひたすら解きました。よく問題集をひたすら周回する方法が早いと言われているので私も行いましたが、問題数が多く一周に時間がかかる上に、全く解けないため意欲が湧かず不安だけが募っていきました。ですので、参考書で基礎知識から身につけました。時間がかかるかもしれませんが、参考書には各章に問題が付いているので、これを解くことで適度に達成感も感じながら進めることができました。何より、あれだけ解けなかった問題集が半分以上解けることの喜びからモチベーションが上がり、問題集の進みもスムーズになりました。

2 一次試験対策の計画

私は3月から本格的に対策を始めました。それから行った対策とその順番は以下の通りです。

- 1、教職教養の参考書（3月～4月中旬）
- 2、特別支援学校の参考書（4月中旬～6月）
- 3、教職教養、特別支援学校の問題集（6月～6月中旬）
- 4、一般教養、保健体育の参考書&問題集（6月中旬～7月）
- 5、出題傾向の高い問題を周回（7月～7月4日）

正直、ギリギリです。試験前の時点で対策にかなり不安がありましたが、本番ではどの範囲も7割以上は解けました。理由は2つ、一つは筆記である専門教養においても選択問題が多く出たこと、2つ目に
出題傾向の高い問題を多く説いておいたことが挙げられます。

従って、選択問題で7割以上解けるほどの基礎知識を身につけたら、自治体の過去問を入手して頻出範囲を理解し、ラストスパートではその部分を入念にやるというように、優先順位をつけて対策しておく
と良いと思います。

+α

参考書、問題集、それぞれにメリット、デメリットがありますが、共通するのは問題に慣れること、つまり毎日のように問題に触れることが大切であるということです。初めの期間は年末、学校が休みになり十分に時間が確保できるうちから始めることをお勧めします。忙しくても、問題によっては時間のかからない問題もあるので、そうした分類をしておくのが効率的だと思います。

3 二次試験対策

2次試験の面接では、想定した質問は3割で他7割は違う質問でした。かといって、面接シートを作っても意味がないというわけではなく、むしろ作った方が良いです。付け加えると作りしっかり落とし込むことが大切です。なぜなら、面接ノートと違う質問をされても、自分の用意した回答の中から答えられるからです。だから私も7割の質問にも詰まることなく答えることができました。つまり、想定していないように想定外ではなかったんです。それでも、全てに完璧に答えられたわけではないですし、「こういうことも言えばよかった」と後悔することもありました。しかし、それもやはり面接シートの回答から言えたことなので、こう言った後悔のないよう、たくさん作りしっかり落とし込みましょう。

次に、仲間を作ることです。面接では、内容もそうですが印象も大切です。それに、自分の考えた回答がベストとも限りませんし、本番で緊張しないためにも対面で答えることに慣れておくことが大切です。なので、一緒に対策をしてくれる仲間はとても大切な存在になります。私の場合は、週3で先生と面接練習をしましたし、仲間と一緒にやることで集団面接の対策もしました。

教員採用試験は根気が必要です。自治体ごとで難易度も倍率も違い、基準点をとっても不合格という

仲間もいました。やはりそこに残るためにはどれだけ対策したかにあると思います。対策する上では、教員採用試験をよく知る人に聞くのが一番早いと思うので、先輩や先生をどんどん頼るのが良いと思います。大変な思いをたくさんするかもしれませんが、頑張ってください。私は4月から、目標である「生徒と教師が共に楽しめる授業」の実践のために、学び続ける姿勢を大切に様々なことに挑戦していきたいと思っています。お互い頑張りましょう。応援しています。

合格体験記（静岡県・高校公民）

経済学部 経済学科4年 小川詩恩

1 採用試験を通して

3年の9月頃に動き出し、『教職課程』という月刊の教育時事や採用試験情報が載っている雑誌を毎月購入しました。まずは目を通すことを意識しました。

本格的に始めたのは、冬休みからでした。試験には、一般・教職・専門教養があり、優先順位を決めて一番の自信ない教職教養を中心に勉強していきました。勉強嫌いだったので、初めは『30日間完成教職教養』、自治体の過去問等を購入し問題の傾向を考えつつ、1日分や1ページなど少しかけていく形で取り組みました。

追い込み時期は『教職課程』の雑誌に毎月ついている問題や『必ず出る問題415』や『直前予想問題481』、『面接場面別指導80+α』といった増刊号、NFUが出していた他の自治体の過去問をやるようにしていました。また、教採の一問一答形式の動画等もYouTubeで見えていましたが、座ってしっかり見るのではなく、移動時間などに流し見していました。

静岡県は、筆記試験はかなりバランスよく出ていました。面接に関しては、過去問題集と全く同じ質問がいくつも出てきたので、過去問はやっておいてよかったと感じました。面接練習は、大学の面接対策講座への参加や教職に精通した教授に見ていただきました。大学生活の中で様々な経験をしてきたので、面接には苦労しませんでした。

2 後輩へ伝えておきたいこと

とにかく、筆記試験はやれば解けます。しかし、面接は今までの経験や場数が試されます。私は大学時代に様々な経験をさせていただきました。教職の先生に任せられて大学1年生から高校生の前で授業をさせていただいたり、市のお知らせを見て東海市の学習支援活動に参加したり、教授の誘いで中国に行き現地の高校生や先生と話をしたりしていました。そういった経験があるからこそ面接で堂々と話ができ、他の受験生と差をつけることができます。

アドバイスとしては、自分の経験になりそうだと思うことは、積極的に参加して行ってほしいと考えています。そしてとにかく場数を踏みましょう。自分が今までにやってきたことをすべて発揮するのが面接です。筆記ではわからないあなたの魅力を相手に伝えるため、講演会や研修の誘いや自分の経験になると思うことにはどんどん参加していきましょう。



合格体験記（広島県・小学校）

楽しんだ者勝ち 勉強嫌いでやる気だけあった私の合格体験記

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 相原柚子

1 自分自身を知ること

まず初めに私が言いたいことは、「試験勉強は“自己理解”が一番大切」です。がむしやりに勉強して焦るより心に余裕をもってする勉強が一番身に入ると思います。そして小学校の先生になるぶれない思いや考えをしっかりと自分にとどめておいてください。それを含め勉強や面接練習で思ったことや分かったことはメモを取るようにするのを勧めます。

2 私の試験勉強法とやっておいた方がいいこと

私は勉強しようと思って机を片付けていたら一日が終わってしまうタイプの間人です。採用試験を実感してやっと勉強を始めるレベルです。そんな私は、周りの人を巻き添えにしていました。監視役でもあり情報共有する人はストレスと無気力が溜まる期間には大切な存在です。友達と勉強や面接練習をして、分からないところは先生に聞きに行くというように自分の考えですべて終わらせるのではなく様々な考えを知っておくことが必要です。

そして私は参考書や問題集だけではなく、スマホも使って勉強をしていました。紙となると量の多さやたくさん並んでいる文字に「ぐっ」と来てしまいます。アプリを使ってクイズ形式で問題を解いたり動画をみたりとスマホ依存を逆に利用しました。

3 楽しむことがなにより大切なこと

採用試験の勉強で一番大切なことは「いかに楽しんでやるか」ということだと思います。自分の未来を想像してみてください。筆記の勉強においても「ここ教育実習でやったな〜」という風の実習で感じたことや体験したとリンクさせながらやると覚えやすくなると思います。ただ覚えるだけより楽しいですよ。面接のためにはたくさんの人と練習したり会話したりしてください。自分の思いを届けることは案外難しいけど伝わるのが分かると練習も楽しくなります。私は面接試験をととても楽しく行うことができました。

これからの将来に向かって楽しく頑張ってください！



教職課程の学生への激励

経済学部 経済学科 2021年度卒業
岐阜県 私立城南高等学校教諭 長谷川大剛

私は現在、私立高校の非常勤講師として社会人1年目を終えようとしています。来年度は、勤め先の学校で担任を持ち正規の教員として働くことになりました。人生最大の目標が叶うとともに、よりよい教師になるという新たな目標に向かって奔走しています。

1年の教師生活を振り返ってみると、そのほとんどが、どれもうまくいかないことばかりでした。先輩教員曰く、「教員という仕事は思い通りにいくことはほとんどなく、達成感を感じられるのはごくわずか」とのことです。どんなに落ち込んだとしても次の日には生徒は登校してくるので、教壇に立たなくてはなりません。生徒の為と思っての言動も響かないことばかりで、人間関係という難しいものを仕事にしているということをやというほど実感しました。しかし、つらく大変な仕事ですが、1年働いただけでもやりがい、確実に、そして、明確にある仕事でもあるということも実感することができました。生徒は日々様々なことを思い悩み、乗り越え、成長をしてみせます。その場に立ち会うことができること、また、彼らの日々の笑顔が見られることで、教師として働く意味が間違いなく感じられると思います。実際に教師になってみないと感じられないものがあると思います。しかし、現在教員を目指している皆さんの努力は未来の生徒の笑顔や成長に実際につながっています。そして、それを感じられるのが教員としての仕事です。今思い悩み、努力が苦しい時期かもしれませんが、ぜひがんばり続けてください。

つらく苦しい教師生活の始まりでしたが、それを乗り越えることができたのも学生生活で得たもののおかげでした。学生時代の学びはもちろんですが、最も支えになったものは教職課程でともに過ごした仲間たちでした。私たちの学期生は藤井先生の指導のもと、チームを組み、教え合いを行っていました。毎日、教職課程センターに通い詰め、ともに頑張った時間が苦しいときに支えとなってくれます。また、ともに研鑽し合い、同じように教師となった仲間はもちろん、異なる職種で頑張っている仲間が悪戦苦闘している姿を見ることで頑張ることができます。このように、ともに乗り越える仲間ができるのも大学生活の魅力だと思います。仲間たちとともに、大学生活を謳歌し、今後も頑張り続けてください。ともに教育を担う人間としてともに奮闘することができることを願っております。

また、この場をお借りして教職課程でお世話になった先生方に御礼を申し上げたいと思います。教師のなんたるかの芯を教えていただき、就職や学生生活を支えてくださった曲田先生、そして、学期生が団結するきっかけをくださり、空き時間を使ってまで世界史の映画上映会の開催や英会話の学習サポートをしてくださった藤井先生、誠にありがとうございました。





合格体験記

スポーツ科学部 スポーツ科学科 2020年度卒業
岐阜県中学校教諭 伊東 和子

私は現在、常勤講師として岐阜県の公立中学校に務めています。今年度、岐阜県の教員採用試験を受験し、中学校保健体育の教師として採用されました。今回は、現在の業務内容、私が講師として働いていた方が良いと思う理由、教員採用試験を受験するにあたって、取り組んでおいた方が良いこと等を皆さんにお伝えしたいと思います。少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。

【公立中学校の常勤講師】

業務内容

今年度は、1年生の副担任として勤務しています。授業は、1年生女子（6クラス）体育、2年生女子（1クラス）体育、特別支援学級の体育、特別支援学級の社会を担当しています。空いている時間は授業準備をしたり、担任の先生方のサポート業務をしたりしています。生徒が下校してからは、職員会議や清掃をしたり、授業や定期テストの準備をしたりしています。講師でも、教師と業務内容はほとんど変わりません。

講師として働いていた方が良いと思う理由

私が講師として働いた方が良いと思う理由は、現場に出ないと学べなかったことがあったからです。現代の子どもの実態、授業の行い方、生徒との関わり方、教師の業務内容…現場でしか知ることが出来ないことばかりです。正直、昨年までの私は面接で「現代の子どもの実態は？」「こういう生徒がいたらどう指導する？」等と聞かれても、なんとなくのイメージでしか答えることが出来ませんでした。しかし今年度は、実際の教育現場で感じ、学んだことを一番の武器に教員採用試験に挑むことが出来ました。

“講師として働くと、教採に向けて勉強する時間が無い”と考える人もいると思います。私もそう思っていたし、実際仕事から帰ると、勉強をじっくり出来る時間も体力もありませんでした。しかし、講師でも授業を受け持ち、研修にも参加できるため、基本的な知識は自然と身に付きました。仕事をするのが、勉強になっていたなと感じています。ただ岐阜県は、一般教養がないため、私のような勉強スタイルでも良かっただけなのかもしれません。

【教員採用試験に向けて】

取り組んでおいた方が良いこと

○面接練習

私は、もともと人前で話すのがとても苦手でした。苦手を克服するために、先生方や事務の方が主催して下さっていた面接練習にはほぼ毎回参加していました。聞かれた内容、自分が答えた内容を面接用のノートに記録し、何回も繰り返し練習しました。繰り返し話すと、徐々に自信がついてきて、試験当日には堂々と話せるようになっていました。

○スポーツのルール

教科専門の試験には、スポーツのルールについて出題されることが多いです。普段観ているスポーツでも、詳しくルールを聞かれると案外答えられません。各競技の大まかなルールが掲載されている本（観るまえに読む 大修館スポーツルール）があるので、私はそれを使って勉強していました。実際の試合映像を観るのもおすすめです。

卒業生からのたより

社会福祉学部 社会福祉学科 2018年度卒業
千葉県高等学校福祉科教諭 佐竹名菜

私は日本福祉大学を卒業後、千葉県の高等学校に勤務し3年目です。

①スタートラインにたった1年目

授業を運営する大変さ、指導力の無いところに痛感させられる1年となりました。指導教諭はいるものの、教育実習とは違い、反省している間にも授業は進んでいきます。生徒にも慣れないまま進むことへ不安を感じる日々が続いてしまっていました。学級は1年生の副担任に配置されました。個性豊かなクラスの生徒に囲まれ、担任の先生も情熱に満ちあふれていたため、勢いよく進んでいてついて行くのが大変でした。そこで、生徒との距離感・自分の立ち位置を学んでいくことができました。

②初めて担任を経験する2年目

入学式の呼名、保護者対応、クラス運営と不安のなかにワクワクする気持ちでいっぱい1年がスタートしました。「どんなクラスになるのかな?」「担任の立ち位置ってなんだろう?」いろいろなことを考えているとあっという間に1学期が終わっていました。2学期にはたくさんの学校行事が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染対策ですべて中止となりました。高校生活初めての学校行事を楽しみにしていた生徒のために何かしようと思い、学級内だけでも楽しめるものを多く企画しました。学校が楽しいと思える生徒が増えてくれたことに教員としても嬉しさを感じることができました。

③任される仕事が増えた3年目

教員という仕事にも慣れてきて、教科主任、生活福祉の系列長、学年レクの企画など様々な仕事を任されるようになりました。自分の学級運営に加え、学年の幅広い生徒をみることへ大変さを感じることが多くありましたが、幅広い生徒と関わることの楽しさを知ることができました。また、自分の教員としての立ち位置もできはじめ、生徒との距離感もつかむことができました。

④振り返る3年間

振り返っても楽しいことばかりではありませんでした。辛いこと、不安なこともたくさんあり自分は教員に向いていないから辞めようと思うことも何度もありました。そんな時、話を聞いてくれた同期、気にかけてくれる先輩教員のおかげで続けられています。しかし何よりも生徒の笑顔に救われてきました。生徒は教員の気持ちに敏感です。落ち込んでいるとき、疲れているときも気にして声をかけてくれます。私はそんな生徒の優しい心、笑顔に助けられてきました。生徒を育てる仕事ですが、生徒に育てられていると感じる3年間を過ごすことができました。

『私にしかねない教員に。』

この言葉を胸に頑張っています。周りの教員と比べ、できない部分ばかり見てしまった時期もありましたが、私にしかねない教員の在り方をこれからも見つけて行きたいと思っています。

みなさんも是非、自分なりの教員を目指して下さい。



教育実習体験報告

子ども発達学部 子ども発達学科3年 時盛直人

私は9月末から4週間の間、半田市の小学校で教育実習を行いました。教育実習は、様々な個性を持った児童達と触れ合い、経験豊富な現職の先生方から指導を存分にいただきながら授業を構想し、実践した授業に対しても意見をいただける、大学生活で最も濃い学びができる機会だと言えるでしょう。ただ良い部分だけに目を向けるべきではありません。教育実習先の教頭先生の言葉をお借りすると、「教育実習は自分が教師に向いているのか、見定める場でもある」からです。

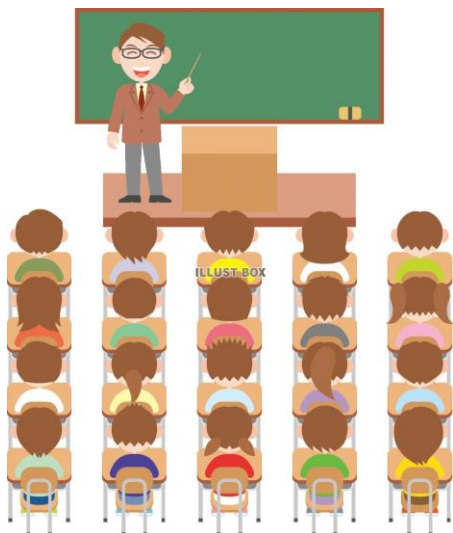
まず教育実習の構成を説明すると、1週間は様々な教科の授業をその教科を得意とする先生の下へ見学をしに行き、2週目の後半から一日に1教科の授業を担当、3週目には一日2教科、4週目には一日に3教科以上を担当する、という流れで行いました。

実習後半になるにつれ担当授業が増えていくため、授業一つにどれくらいの準備時間を使えるのかという点で私は一番苦労しました。担当教員との打ち合わせや反省会などを終え、そこから日誌を作成し帰宅するため帰宅時間は20時を回ってしまっていました。そこから私は帰宅後に授業準備を行っていたため、何教科もあると睡眠時間が1時間に満たない日もあり、精神的にも肉体的にも健康的な実習であったとは言えません。しかし、頑張って準備した授業に対して、児童が楽しそうに参加する様子を見ると、頑張ってよかった、また頑張ろうという気持ちになり、大きなやりがいを感じられます。

教員がブラックだと言われる中でやりがいを持って仕事を行っているのは、児童のためだと思うと苦痛にならないからだ実感できました。

もちろん、実習では苦労話だけではなく、楽しい思い出もたくさんありました。休み時間にはたくさんの児童と会話したり、運動場で鬼ごっこをしたり、最終日にはお別れ会を開いてくれたりして、今後も忘れることのない楽しい思い出となりました。また、実習ではたくさんのことを学びました。特定の1人ではなく、学級全体に話を聞かせるためにはどうしたらよいか、板書の際に児童が理解しやすい書き方など大学生を相手にした模擬授業ではなかなか得られない学びが数えきれないほどありました。苦労が多い反面で、それに見合った楽しさや学びがあるため、結果的には有意義な実習となりました。

今回の実習を通して、自分がどのような教師になりたいのかの理想像が大きく変わりました。実際に児童と触れ合う中で、児童は信用した相手にしか心を開かないという事をまざまざと感じ、児童に悩み事や相談、頼ってもらうためにも信用される教師になりたいと感じました。また、実習を通して教育実習生という立場ではなく、自分のクラスの担任として児童と向き合いたいと思い、以前と比べて教師になりたいと強く思えるような実習となりました。この経験は、今後忘れることなく、教採に向けた意識としても役立つと思います。





障害児教育実習体験記

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修4年 湯川波奈

私は、大府もちのき特別支援学校桃花校舎で障害児教育実習を行いました。長いようであつという間の2週間でした。実習が始まる前は、とても緊張していて、職員室での朝礼の実習生での挨拶や、担当学級での自己紹介は、ドキドキでいっぱいでしたが、生徒たちのおかげでその緊張や不安は一瞬で消え去りました。実習初日から、担当学級の生徒をはじめ、多くの生徒が私に「先生！先生！」と積極的に話しかけに来てくれて、仲良くなろうとしてくれている姿がとても嬉しかったのを覚えています。この実習を通して出会った生徒や先生方との出会いによって、非常に思い出のある、充実した2週間になりました。

私が実習を行った特別支援学校は、高等部卒業後、一般就労を目指す比較的軽度の知的障害を抱える生徒が多く在籍している学校でした。そのため、作業学習により力を入れている様子がみられました。どの授業も、一人ひとりの生徒が真剣に作業をこなす姿が見られ、人一倍の集中力と丁寧さを持ち合わせる生徒の多さに驚きました。作業学習は、何かの商品を製作することが多いですが、その作業が、“ただ黙々と物作りを行うだけの作業”というイメージになってしまえば、将来に向けた“仕事”のモチベーションが湧きにくくなってしまいます。そうならないために、先生方が生徒に対して「〇〇さんが作った物が、たくさんの人を笑顔にすることができれば、とても嬉しいことですね」と言葉かけを行っている様子が見られました。“自分の行いが、人を笑顔にする。その笑顔を見た時は嬉しい気持ちになる”という価値観をイメージしやすくするこの言葉かけは、将来どのような仕事に就く上でも非常に重要であることだと私自身も改めて気付かされました。

私は、さまざまな授業の観察・参加を通して、生徒との距離の取り方や言葉がけの仕方、「叱る」「褒める」の使い分けの的確さと、タイミングの良さなど、私にはなかなか真似のできない先生たちの生徒たちとの関わり方を勉強させて頂きました。生徒の障害特性だけに目を向けず、障害の配慮をしながらも、一人ひとりの性格や発達段階を十分に理解しているからこそその対応が多く見られました。そして何よりも、先生方が生徒たちに向ける笑顔は、愛情と「将来こんな大人になってほしい」というような強い願いが表出されているようで、そんな先生方を近くで観察させて頂いたことによって、「私もこんな先生になりたい」という理想の教師像も芽生えました。この実習を通して得た経験を大切に、今後も精進していこうと思っています。

そして何よりもこの実習を通して、実習中は生徒との時間をどれだけ多く作れるかが一番大切だと感じました。私は、生徒たちから多くのことを学ばせて頂いたこと以上に、パワーや元気をもらうことができました。障害児教育実習は2週間という短い期間ですが、どのような実習になるかは自分の意識次第だと思っています。何事にも積極的に取り組み、感謝を忘れず、有意義な実習になるよう頑張ってください！

教職インターンシップでの学び

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修2年 辻本絵梨奈

私は教職インターンシップで学校へ行くたびに多くの学びを得ました。コロナ禍でありながら受け入れてくださり、感謝しかありません。毎回のインターンシップで発見や大変さ、難しさ、楽しさ、嬉しさなど様々なことを実感しました。

初日は緊張もあり、子ども達とどう接したらよいのか分からずにいた自分がいました。しかし、子ども達が話をしてくれたり、先生方からアドバイスをいただいたりして肩の荷が下り、助けられました。

次の週からは子ども達の方から話しかけてきてくれました。回数を重ねるごとに距離が縮まり、「先生遊ぼう!」「丸付けお願いします!」など、子ども達から要求や自分の好きなこと、趣味を話してくれるようになり、絵を描いてプレゼントしてくれる子もいました。走って抱きついてくる子もいました。子ども達と触れ合うことはとても貴重で「嬉しいな。こんなに楽しいんだな」と実感できました。

学んだことは楽しさや嬉しさだけではなくありません。教えるうえでの難しさや先生方のお大変さを身にしみて感じました。インターンシップに参加させていただいた特別支援学級では、一人ひとりに合わせたプリントを使っていました。一斉授業ではないので、どう教えたら分かりやすいか、どういう工夫をしたらよいのか子ども達に合わせて考えていました。

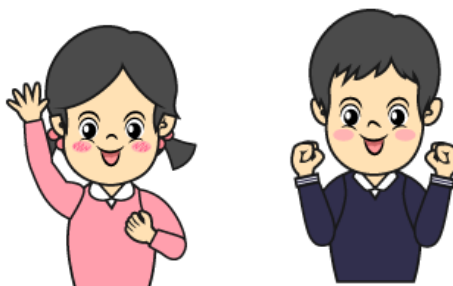
更には、集中力が続かない子も多くいました。「どうしたら勉強に集中してくれるだろう。教え方がいけないのかな」と常に頭を悩ませていました。その中でも大学で模擬授業や講義で学んだことを生かすこともできました。そのため、毎回の授業時間を大切に学ばなければならないと改めて気づくことができた瞬間でした。

しかし、途中で泣いてしまう子や怒ってしまうこと、何も手を付けなくなってしまったこともありました。自分の経験不足や知識不足もあってどうしたらよいのか分からず、壁にぶつかりました。そこで先生から「こういうときはこうするんだよ」と状況に合わせて教えていただき、教え方やその工夫も学びました。先生方は常に子ども達のことを考えており、勉強しやすくように工夫をして、思いついたら何かを作って、すぐに実行していました。また、やる気を出させることや楽しませたり、時には注意したり、先生の凄さを目の当たりにしました。

最終日にはサプライズでお別れ会を開いてくれました。歌を歌ってもらったのですが、感動や寂しさで泣いてしまいました。これまではお別れ会を開く側だったのに、私のために歌ってくれて、こんなに嬉しいのだと心の中で感じました。

私は毎回のインターンシップの終わりに、その日あった出来事や感じたこと、反省点を書き、次回の目標を立てていました。次の時に達成できたことは嬉しかったし、上手くいかなくて反省が積み重なることもありましたが、その全てが学びだと気づきました。沢山吸収してこの経験を将来に繋げたいと強く思い、行っていました。

色々な人に助けられて最後までやり遂げることができたと思います。もし、教師になってもならなくても、この経験を絶対に活かすと決めています。子ども達から学んだこと、先生方から学んだこと、自分の目で見て、経験して得たこと、努力の大切さなどを初心に戻って学び、実感しました。私にとって一生の宝物です。





今後の予定



◆教職課程オリエンテーション

【新2年生】

美浜キャンパス 2022年3月25日（金）4限～5限

東海キャンパス 2022年3月25日（金）4限～5限

教職課程登録

仮登録：2022年3月25日（金）～30日（水）

本登録：2022年4月1日（金）～19日（火）

※教職課程オリエンテーションに出席後、仮登録（Googleフォーム入力）及び本登録（課程登録費振込+ Googleフォーム入力）を行ってください。

◆教育実習手続きオリエンテーション（美浜キャンパス）

【新2・3年生】

教育実習手続き（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼）及び介護等体験
説明

美浜キャンパス 2022年4月7日（木）3限

東海キャンパス 2022年4月7日（木）5限

※3年次4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き（中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前）及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 2022年4月7日（木）4限

東海キャンパス 2022年4月7日（木）4限

※教育実習 I 事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。

